

大学生の読書習慣が10年間でどう変わったか
—静岡県立大学新入生の調査（2009-2018）より—

澤 崎 宏 一

【研究ノート】

大学生の読書習慣が10年間でどう変わったか

—静岡県立大学新生の調査（2009-2018）より—

澤 崎 宏 一

静岡県立大学国際関係学部の1年生を対象におこなった、2009年から2018年までの読書習慣に関する調査結果を報告する。調査の結果、年とともに全体的な読書時間が減少し、教科書を雑に読むようになったことがわかった。しかし、インターネット等でニュースを読む頻度は多くなり、年とともにより丁寧にネットのニュースを読むようにもなっていた。また、経年的な変化に関係なく次のような特徴もみられた：(i) 「全般的な読書頻度」や「読書の好き嫌い」といった単純な質問が、過去や現在の読書経験を反映しやすい、(ii) 読書のジャンルにかかわらず、多く読む学生ほど丁寧に内容も読んでいる、(iii) 中学でよく新聞や教科書を読んでいた学生は、引き続き高校でもよく読んでいたが、大学になるとその多くが読まなくなってしまう。以下、まず調査の背景を記し、2節で調査方法を説明する。続く3節で結果を示し、4節で結論を述べる。

1. 調査の背景：読書習慣に関するこれまでの調査報告

読書習慣に関する研究は、初等・中等教育を対象としたものに大きく偏っているといわれる（加藤，2019）。2019年は、読解力を中心とした「OECD生徒の学習到達度調査」の結果が公表され（文部科学省・国立教育政策研究所，2019）、若者の読書習慣や読解力についての関心が高まったが、この調査の対象は、OECD加盟37ヶ国の15歳児（日本は高校1年生が対象）であった。調査の結果、日本の高校1年生は、「読書は大好きな趣味のひとつ」で、読書を肯定的にとらえ、コミックやフィクションを読む傾向が他の国と比べて高かった。また、学習のためにインターネットのサイトを見たり、関連資料を閲覧する頻度が低いことがわかった。

大学生を対象にした大規模調査に、全国大学生生活協同組合連合会が毎年行っている、学生生活実態調査がある。2019年の調査では、全国30の国公私立大学から、10,832人が回答している（全国大学生生活協同組合連合会 [以後、全国大学生協連]，2020）。報告によると、大学生の平均読書時間は1日30.4分で、10年前（2009年調査）の27.4分

と比べて大きな変化はなかった。しかし、1日に読書時間が0分と回答した割合が48.1%にのぼり、10年前の割合である37.8%と比べると、あきらかに増加していた。ただし、これは大学生の生活全般についての調査のため、読書に特化した質問はごく一部にすぎない。

大学生の読書習慣を主目的にした調査報告も一定数存在する。近年の報告の一部を表1にまとめた。いずれも調査時点の読書習慣を尋ねているが、調査によっては過去の読書経験や学生の属性に踏み込んでいるものもある。一定の期間にわたる経年的な読書習慣の変化に触れているものは平山(2009; 2015)や浜島(2019)、全国大学生協連(2020)などであり、年少者との比較や、過去の大学生との比較を通して、読書量や読書時間の減少を指摘している。また、インターネット等を介した読書の割合の大きさに言及しているものもある。

表 1. 大学生を対象とした先行研究一覧

先行研究	調査実施年	参加人数	参加者情報	大学情報	その他
平山 (2009)	1987年, 1990年 2000年, 2006年	6,009人 ¹		複数地域の大学(重複の程度は不明)	複数調査のメタ分析
澤崎 (2012)	2009年 ²	80人	1-3年生	静岡県1大学	本稿データの一部
平山 (2015)	2006年, 2012年	3,312人 ¹		複数地域の大学(重複の程度は不明)	複数調査のメタ分析
平山 (2017)	2016年	233人		不明	読書習慣の質問項目を精査するための研究
皆川 (2017)	2016年	163人	1年生	熊本県1大学, 福岡県1短期大学	
澤崎 (2018)	2012年	52人	1-4年生	静岡県1大学	本稿データの一部
加藤 (2019)	2018年	1,271人 ¹	卒業生	関東1大学	1996年から2016年までの卒業生に調査
浜島 (2019)	2013年~2017年	不明		複数地域の国公立大学	全国大学生協連調査結果の経年分析
全国大学生協連 (2020)	2019年	10,832人		国公立大学30校	毎年実施

注: ¹ 複数調査のメタ分析であり、参加人数は全調査の合計値を記した。

² 澤崎(2012)には調査年の情報がなく、資料情報をもとに転記した。

調査規模の点でも報告によって違いがみられる。全国大学生協連(2020)やそのデータを再分析した浜島(2019)は、対象人数や大学数の点から大規模調査といえる。平山(2009; 2015)の調査も、それぞれ6,009人と3,312人を対象としているので一定以上の規模であるが、異なる別々の調査を統合して比較しているため、結果の見方には注意が必要であろう。加藤(2019)は1,271人のデータを分析しているものの、卒業年に約20年の幅を設けた上での元学生が対象であったことに注意が必要である(調査点は20年のなかの7時点)。その他の調査は、対象学生数も大学も限定されており、そう簡単に大規模調査が実施できないという実情がうかがえる。

大学生の読書習慣が10年間でどう変わったか

本調査も、静岡県立大学国際関係学部限定の小規模調査である。ただし、同一大学、同一学部の学生に対して、約10年間調査を続けた結果という点で、先行研究には見られない特徴があるといえるだろう。以下にその調査方法と調査結果を説明する。

2. 調査方法

2.1 調査期間

2009年から2018年までの間、毎年（毎年度）1度ずつ学生の読書習慣に関する調査をおこなった。ただし、2016年度は事情により調査できなかったため、2016年を除く計9回分の結果を報告する。調査時期は、入学してまだ日が浅い7月に統一するよう努めたが、2010年度だけは1学年終了まぎわの1月となった。

2.2 調査参加者

静岡県立大学国際関係学部の1年生計346人が調査に参加した。全員が日本語母語話者で、平均年齢は18.42歳（ $SD=.62$ ）であった。国際関係学部は国際関係学科と国際言語文化学科の2学科からなり、学生の人数配分は約1対2である。本調査では、国際関係学科43人と国際言語文化学科300人が調査に参加し、後者に大きく偏る人数配分となった（約1対7）。これは、調査参加者を国際言語文化学科で開講されている言語学関連の授業の履修者から募ったためである。

各調査年度における参加者とその内訳を表2に示す。国際関係学部における男女比は、女性が男性の2倍以上であるが、本調査ではそれよりも際だって女性が多い。これも、特定の授業履修者のなかから参加者を募ったことと関係していると思われる。

表 2. 調査期間と参加者の内訳

調査年度	調査月	調査学年	人数	内訳 (所属)		内訳 (性別)		平均年齢 (SD)
				国際関係	言語文化	女性	男性	
2009	7月	1年生	30	9	21	27	3	18.27 (.58)
2010 ¹	1月	1年生	30	2	27	27	3	18.71 (.46)
2011	7月	1年生	24	3	21	16	8	18.50 (.72)
2012	7月	1年生	40	6	34	32	8	18.43 (.55)
2013	7月	1年生	22	6	16	18	4	18.36 (.58)
2014	7月	1年生	35	6	29	33	2	18.37 (.55)
2015 ²	7月	1年生	46	4	42	40	6	18.46 (.89)
2016	N/A	N/A	N/A	N/A	N/A	N/A	N/A	N/A
2017 ¹	7月	1年生	87	6	80	62	24	18.34 (.55)
2018 ¹	7月	1年生	32	1	30	24	7	18.50 (.51)
合計 ¹			346	43	300	279	65	18.42 (.62)

注：¹ 回答に欠損値があったため、内訳の合計が総人数と合致しない箇所がある。

² 回答者の内、2名は同年の11月に調査に参加した。

2.3 調査項目

調査項目（質問）は全て、日本語での読書に限定して設定された。質問は全部で32あり、大きく6つのカテゴリに分けられる（表3参照）。6つのカテゴリは、A. 読書全般に関する質問、B. 紙の読書に関する質問、C. ネットなど紙以外の読書に関する質問、D. これまでの読書頻度に関する質問（本）、E. これまでのジャンル・媒体別読書習慣に関する質問（本以外）、F. 好きな小説家・作家の名前の質問である。なお、アンケートは年を追う毎に若干の修正が加えられ、年によって質問が追加されたり修正や削除されることもあった。本稿では、少なくとも4年にわたり回答を求めた同等の質問についてのみ報告する。

大学生の読書習慣が10年間でどう変わったか

表 3. 質問項目の内訳（4年以上質問されたもの）

質問 カテゴリ	質問項目	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2017	2018	
A	読書全般	1. 好き嫌い	○	○	○	○	○	○	○	○	○
		2. 読書頻度	— ¹	—	○	○	○	○	○	○	○
		3. 読書時間 ²	—	—	—	—	—	○	○	○	○
B	紙の 読書	1. 読書時間 ²	—	—	—	—	—	○	○	○	
		2a. 本（小説等）頻度	—	—	—	○	○	○	○	○	○
		2b. 本（小説等）量	○	○	○	○	○	○	○	○	○
		3a. 新聞頻度	○	○	○	○	○	○	○	○	○
		3b. 新聞方法	○	○	○	○	○	○	○	○	○
		4. 雑誌頻度	○	○	○	○	○	○	○	○	○
		5a. 教科書頻度	—	—	○	○	○	○	○	○	○
5b. 教科書方法 ²	—	—	○	○	○	○	○	○	○		
C	紙以外の 読書	6. マンガ頻度	○	○	—	—	—	—	○	○	○
		1a. 読書頻度	○	○	○	○	○	○	○	○	○
		1b. 読書方法	○	○	○	○	○	—	—	—	—
		2. 小説頻度	—	—	—	—	—	○	○	○	○
		3a. ニュース・記事頻度 ²	—	—	—	—	—	○	○	○	○
		3b. ニュース・記事方法 ²	—	—	—	—	—	○	○	○	○
D	これまでの 読書頻 度（本）	1. 現在	○	○	○	○	○	—	—	—	—
		2. 高校	○	○	○	○	○	○	○	○	○
		3. 中学校	○	○	○	○	○	○	○	○	○
		4. 小学校	○	○	○	○	○	○	○	○	○
E	これまでの ジャンル・媒体 別読書習 慣（本以 外）	1a. 高校：新聞頻度	○	○	○	○	○	○	○	○	○
		1b. 高校：新聞方法	○	○	○	○	○	○	○	○	○
		2a. 中学校：新聞頻度	—	—	—	—	—	○	○	○	○
		2b. 中学校：新聞方法	—	—	—	—	—	○	○	○	○
		3a. 高校：教科書頻度	—	—	○	○	○	○	○	○	○
		3b. 高校：教科書方法	—	—	○	○	○	○	○	○	○
		4a. 中学校：教科書頻度	—	—	—	—	—	○	○	○	○
		4b. 中学校：教科書方法	—	—	—	—	—	○	○	○	○
F	好きな小説家・作家の名前	5. 高校：ネット頻度	—	—	—	—	—	○	○	○	○
		6. 中学校：ネット頻度	—	—	—	—	—	○	○	○	○

注：¹ 表中の「—」は、その年に質問されなかった項目を指す。

² 調査実行年との間の相関関係が確認された項目（ $r > .2, p < .05$ ）

最初の質問カテゴリ A は、「読書全般」に関する質問で、何をどうやって読むか（内容やジャンル・媒体）にかかわらない3つの質問からなる。日本語で書いてあるものを読むことが好きかどうかの「好き・嫌い」、どのくらいの頻度で文章に目を通すかの「頻度」、そして1日のおおよその読書時間である。ここでいう頻度とは、毎日読むのか数日に1度読むのかといったことで、回答者は1から7のスケールで判断し

た。本調査の殆どは7段階スケールから回答を選ぶ方式であり、これについては次節で説明する。

質問カテゴリBからEは、読書のジャンルや媒体、時代に分けて具体的に尋ねている。ジャンル別では、「本(小説)」、「新聞」、「雑誌」、「教科書」や「マンガ」についてその頻度や読み方(方法)を尋ねた。媒体別では、「紙」の読書と、ネットやスマホを想定した「紙以外」の読書に分けた。時代については、現在の読書習慣とは別に、「小学校」、「中学校」、「高校」に分けて各時代の読書頻度や方法を質問した(質問カテゴリD、E)。

最後の質問カテゴリFは、「好きな小説家・作家の名前」を問う質問である。これは、好きな作家の名を多くあげることができるほど、読解経験が豊かであることを示すという Stanovitch and Cunningham (1992) の知見にもとづく質問である。

合計32の質問は、「好き・嫌い」、「時間数」、「頻度」、「量」、「方法」、「作家名」のうちどれかを尋ねており、特に「頻度」と「方法」を問うものが多かった。これらの代表的な質問を図1に抜粋した。また、調査の最終年である2018年に用いられた調査票を参考資料として巻末に付す。なお、本調査で用いた質問とその結果は、澤崎(2012)や澤崎(2018)などでこれまで報告されているものと重複している。¹

1 過去の調査報告では、読書習慣以外の質問や、1年生以外の参加者の結果も若干含まれるが、このようなデータは本調査からは除いた。

大学生の読書習慣が10年間でどう変わったか

図1. 実際の質問例

A

1 日本語で書いてあるもの(本、新聞、雑誌など)を読むのは好きですか、嫌いですか？

とても嫌い	どちらかと言えば嫌い	どちらかと言えば好き	とても好き
1	2	3	4
5	6	7	

2. 現在、日本語で、本、新聞、雑誌、インターネット、端末など、全て合わせて文章をどのくらい読みますか？

殆ど読まない	たまに気が向いたら読む	数日に1度読む	毎日読む
1	2	3	4
5	6	7	

3. 現在、日本語で、本、新聞、雑誌、インターネット、端末で文章を読んでいる時間は、一日のうちどのくらいですか？
0時間、0.5時間、1.5時間、3.0時間のように、0.5時間単位で答えて下さい。

1日平均約 _____ 時間

B

2. 通常(試験前など、時間の余裕がない時を除く)、日本語の本(小説など)をどのくらい読みますか？(紙の読書のみ)

a. 読む頻度

殆ど読まない	たまに気が向いたら読む	数日に1度読む	毎日読む
1	2	3	4
5	6	7	

b. 読む量

1年で1~2冊以下	1~2ヶ月で1冊	1~2週間で1冊	1~3日で1冊
1	2	3	4
5	6	7	

3 通常(試験前など、時間の余裕がない時を除く)、日本語の新聞をどのくらい読みますか？(紙の読書のみ)

a. 読む頻度

殆ど読まない	たまに気が向いたら読む	数日に1度読む	毎日読む
1	2	3	4
5	6	7	

b. 読み方

見出しだけ見る (記事は読まない)	気になる記事は 時間をかけずにさっと読む	重要だと思う記事は きちんと読む	時間をかけて じっくり読む
1	2	3	4
5	6	7	

D

2 高校生の時、どの程度日本語の本を読んでいたか？(雑誌・新聞・漫画・ネットの文章を除く)

殆ど読んでいなかった	たまに気が向いたら読んでいた	数日に1度読んでいた	毎日読んでいた
1	2	3	4
5	6	7	

F

好きな(好きだった)小説家やノンフィクション作家の名前を何人かあげてください。
(誰もいない場合は空欄で)

注： 図中の質問番号は、表3の質問番号に符合する。

2.4 回答方法

前節で述べたように、すべての質問は読書に関する「好き・嫌い」、「時間数」、「頻度」、「量」、「方法」、「作家名」のうちいずれかを尋ねていた。「時間数」(質問 A3と B1)と「作家名」(質問 F)は実際の数字や人名を答える形だったが、それ以外の「好き・嫌い」、「頻度」、「量」と「方法」については、7段階のスケールから適当な回答値を参加者が選択した。下に示すように、スケールの種類毎に用いる文言はなるべく統一した。

(1) 「好き・嫌い」のスケール (読書全般のみ)

とても嫌い	どちらかと言えば嫌い	どちらかと言えば好き	とても好き
1	2	3	4
5	6	7	

(2) 「頻度」のスケール

殆ど読まない	たまに気が向いたら読む	数日に一度読む	毎日読む
1	2	3	4
5	6	7	

(3) 「量」のスケール (本のみ)

1年で1~2冊以下	1~2ヶ月で1冊	1~2週間で1冊	1~3日で1冊
1	2	3	4
5	6	7	

(4) 「方法」のスケール (新聞・雑誌・教科書のみ)

見出しだけ見る (記事は読まない)	気になる記事は 時間をかけずにさっと読む	重要だと思う記事は きちんと読む	時間をかけて ゆっくり読む
1	2	3	4
5	6	7	

なお、本を読む量を問う「量」のスケールに関して、3の「1~2ヶ月で1冊」以下の回答となった場合、不読(1ヶ月に1冊本を読まない読書量)の指標ととらえることができる。

上記の質問を印刷して配布し、参加者がアンケート用紙に回答を記入する形式で調査を実施した。回答にかかる時間は5分程度であった。

3. 調査結果

本節では調査の結果を記す。まず3.1節で年毎の回答値(平均)の推移を示し、調査年と質問項目との間に相関関係がみられるかを確認する。3.2節では、過去10年全体で、特筆すべき相関関係がみられた質問項目について報告する。²

2 相関係数は、若島・都築・松井(2005)に従い、「殆ど関係がない ($0.0 \leq |r| \leq 0.2$)」、「弱い関係がある ($0.2 < |r| \leq 0.4$)」、「中程度の関係がある ($0.4 < |r| \leq 0.7$)」、「強い関係がある ($0.7 < |r| \leq 1.0$)」の4種類に分けて解釈した。また、「 $0.2 < |r|$ 」以上の場合に、何らかの関係があると見なし本稿で結果を報告した。

3.1 調査年と質問項目の関係

表3の質問項目に沿って、平均回答値を図とともに示していきたい。回答方法である7段階スケールのなかには、前節(1)のような数値間の連続性が強いものから、(4)のように連続性が比較的弱いと思われるものまで含まれているが、全ての結果を線グラフで統一して表す。回答値が1に近いほど読書頻度が少なく、読み方も雑であることを意味する。逆に、回答値が7に近いほど読書頻度が高く、読み方が丁寧であることを意味する。

3.1.1 読書全般

図2は読書全般の「好き嫌い」と「読書頻度」の結果である。双方とも、調査年との相関関係は確認できなかった。「好き嫌い」は、5の「どちらかと言えば好き」から6（「どちらかと言えば好き」と「とても好き」の中間）の間で推移していた。「読書頻度」も、おおよそ5の「数日に1度読む」から6（「数日に1度読む」と「毎日読む」の中間）の間での推移だった。

図3は、読書全般の1日の読書時間を示しており、比較のために紙の読書時間も併記した。この2つの質問は2014年から加えられたものである。読書全般の平均読書時間は、2014年には2時間以上であったのが、2018年には1.5時間に落ち込んでいる。紙の読書も、2014年には1時間であったのが、2018年には30分ほどに落ちている。これらの読書時間の減少傾向には、調査年との間に弱い負の相関が認められた（全般の読書時間： $r=-.238$, $p=.001$ ；紙の読書： $r=-.207$, $p=.003$ ）。

つまり、読書自体は10年を通して「好き」であり、毎日ではないにしても頻繁に文章に目を通してはいるが、読書に費やす実際の時間は明らかに短くなっていた。減少した読書時間は、紙の読書時間が減っていることと関係していると考えられる。なお、読書時間の減少は先行研究の大方の報告と矛盾がなく、本結果2018年の1日の平均読書時間（紙の読書）が約30分であった点も、全国大学生協連（2020）の報告と合致する。ただし、全国大学生協連（2020）では読書を1日に全くしない割合が年とともに大きく増加していたものの、平均読書時間そのものの経年的な変化はみられず、この点は本結果と異なっていた。

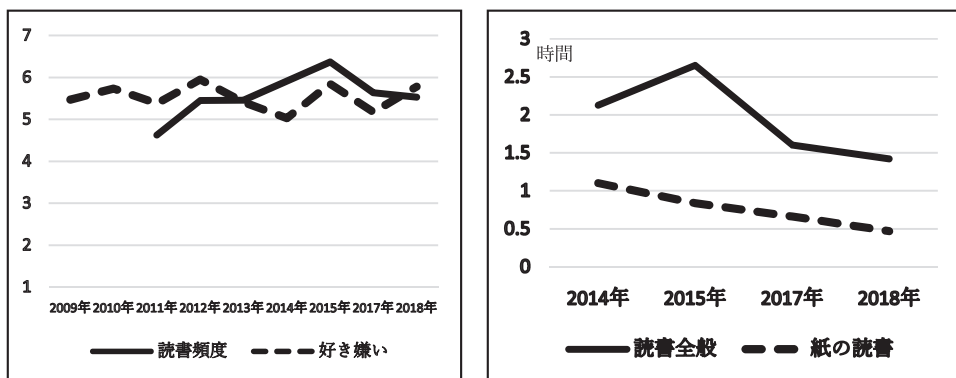


図2. 読書全般：「好き嫌い」と「読書頻度」 図3. 読書全般と紙の読書：「読書時間」

3.1.2 紙の読書

図4は、紙の読書頻度を読書ジャンルに分けて質問した結果である。いずれも、調査年との相関関係は確認されなかった。10年を通して一番頻度が高かったのは「教科書」で、平均回答値が3（たまに気が向いたら読む）から4（「たまに気が向いたら読む」と「読むことが多い」の中間）の間で推移していた。逆に、一番頻度が低かったのは「新聞」であり、2（「殆ど読まない」と「たまに気が向いたら読む」の中間）を前後していた。「本」、「雑誌」、「マンガ」は、3の「たまに気が向いたら読む」を中心に上下していた。

さらに、本の読書量、新聞や教科書を読む方法について尋ねた結果が図5である。このうち、教科書を読む方法と調査年との間にのみ弱い負の相関がみられた ($r = -.208, p < .001$)。質問が設けられた2011年には平均値が5の「重要だと思う項目はきちんと読む」であったが、その後4（「重要だと思う項目はきちんと読む」と「重要だと思う項目は時間をかけずにさっと読む」の中間）に向かって下がり、年とともに教科書を読む方法が雑になったといえる。新聞の読書方法は3の「気になる記事は時間をかけずにさっと読む」を中心に上下していた。本の読書量も、平均値3をまたいで上下しており、これは「1～2ヶ月で1冊」読む量のことである。1ヶ月に1冊も読まない人の割合をとらえて不読率と言うが、本結果は、そのような不読の状態が過去10年を通して多くの学生にあてはまることを示唆する。

紙の読書時間は年とともに短くなっていることを上で示したが、読書ジャンルを問わず紙の読書頻度については減少していないことがわかった。読書頻度が一定であるのに読書時間だけ減少したということは、読書時間の減少は教科書の読み方に丁寧さがなくなったことと関係があるのかも知れない。

大学生の読書習慣が10年間でどう変わったか

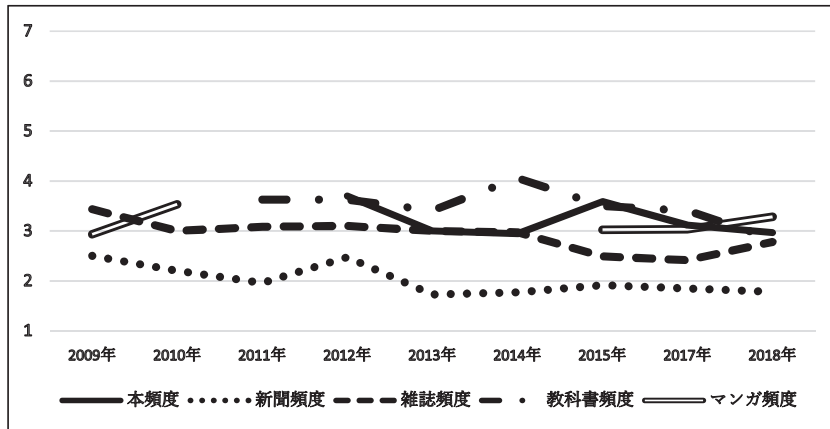


図4. 紙の読書：本・新聞・雑誌・教科書・マンガの「頻度」

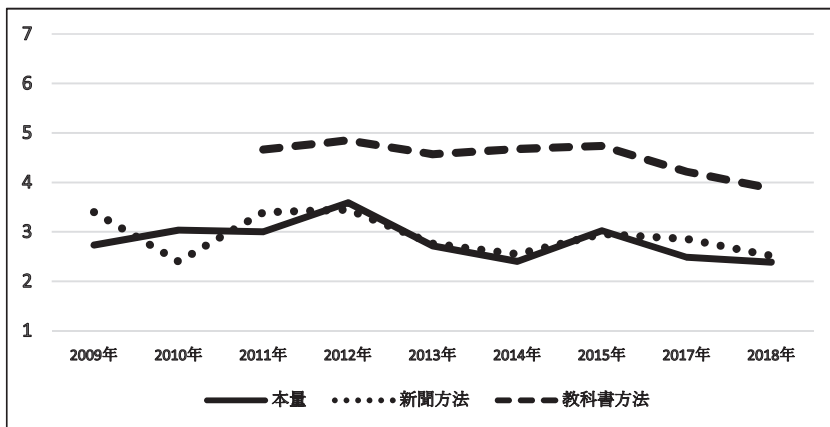


図5. 紙の読書：本・新聞・教科書の「量」や「方法」

3.1.3 紙以外の読書

図6と図7は、インターネットやスマホなど紙以外での読書の頻度と方法について、結果をまとめたものである。まず、図6の頻度について、「ネット文章」一般の読書は、平均値が6（「数日に1度読む」と「毎日読む」の中間）の前後で、2009年から2018年まであまり変化がない。「ニュース」と「小説」の頻度についての質問は2014年から新たに加わり、「ニュース」の頻度と調査年の間に弱い正の相関がみられた($r=.203, p=.004$)。2014年には平均頻度が4（「たまに気が向いたら読む」と「数日に1度読む」の中間）を少し上回る程度であった。しかし、2018年には平均頻度が6（「数日に1度読む」と「毎日読む」の中間）を上回るまでになった。次の「小説」をネットで読む頻度は、2（「殆ど読まない」と「たまに気が向いたら読む」の中間）から3の「たまに気が向いたら読む」の間で平均値に変化がみられるものの、相関関係

は確認されなかった。

紙以外の読書方法(図7)は、「ネット文章」一般の読み方を2009年から2013年の5年にわたり質問し、2014年からは「ネットニュース」に絞る質問に修正された。このうち、「ネットニュース」の読み方と調査年間に弱い正の相関が現れ($r=.238$, $p=.001$)、平均値が3の「気になる記事だけななめ読み」から4(「気になる記事だけななめ読み」と「重要だと思う記事はきちんと読む」の中間)に上昇した。

このように紙以外の読書では、ニュースをネットで読む頻度と方法の両方で有意な相関関係が認められた。本稿の質問項目のなかで、調査年との間に正の相関がみられたのはこの2項目のみであった。つまり、紙の読書は年とともに時間数が減少し(教科書の)読み方が雑になる傾向にあるのに対し、紙以外の読書では、特にニュースをネットやスマホで読む頻度が多くなり、読み方もより注意深く読むようになっていることがわかった。

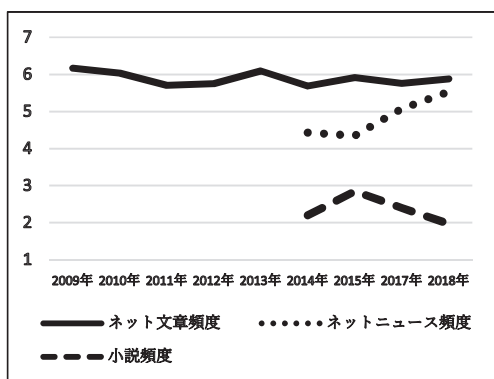


図6. 紙以外の読書：「頻度」

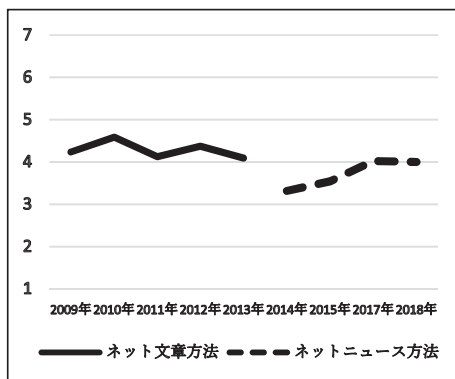


図7. 紙以外の読書：「方法」

3.1.4 これまでの読書

これまでの読書とは、小学校、中学校、高校のときをそれぞれ一区切りとして、どのくらい読書をしていたかを尋ねたものであり、その結果を図8から図13に示した。現在の読書の回答値も比較のために含めてある。調査年との間の相関関係は、どの質問においても確認されなかった。

まず、図8では、紙の本を読んでいた頻度について質問している。全体的に、小学校での読書が最も頻度が高く平均値は5の「数日に1度読んでいた」に近い。その後中学から高校の順番で読書頻度が下がっていく。最も頻度が低いのは現在(大学)の読書頻度で、3の「たまに気が向いたら読む」まで下がる(図4も参照)。

つまり、小さいときに最もよく本を読んでおり、学年が進むにつれ本を読む習慣が薄れていく傾向がみえる。これと似た結果は、先行研究のメタ分析を行った平山

大学生の読書習慣が10年間でどう変わったか

(2009)も指摘しており、小学生が1月平均9.7冊の本を読んでいるのに対して、中学生では2.7冊に減り、大学生の平均は2.1冊であったことが報告されている。

図9と図10は、これまで新聞(ネットを除く)をどのくらい読んできたかについての結果を示す。頻度は、高校の 때가最も高いが、平均値は3の「たまに気が向いたら読んでいた」を上下しており、高い頻度とは言い難い。中学と現在(大学)が最も低く、2のあたり(「殆ど読んでいなかった」と「たまに気が向いたら読んでいた」の間)を上下している。新聞を読む方法も同様に、高校のときが最も丁寧に読んでおり(「気になる記事は時間をかけずにさっと読む」と「重要だと思う記事はきちんと読む」の間)、中学と現在(大学)は比較的雑な読み方をしていることがわかる(「気になる記事は時間をかけずにさっと読む」を上下)。

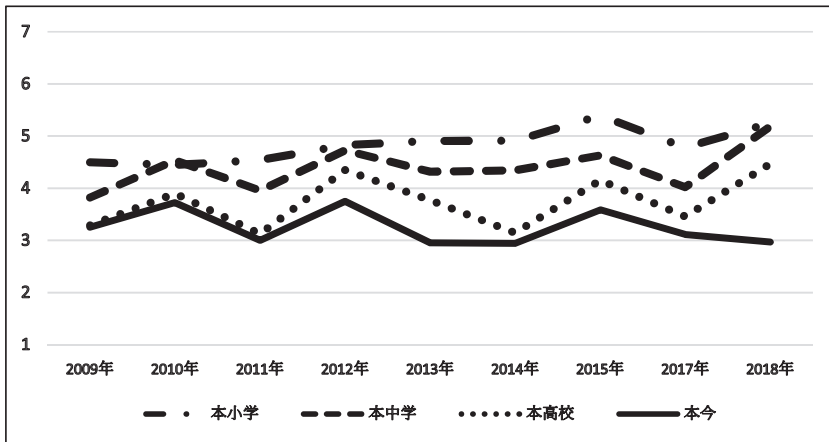


図8. これまでの本の読書：小学・中学・高校・今の「頻度」

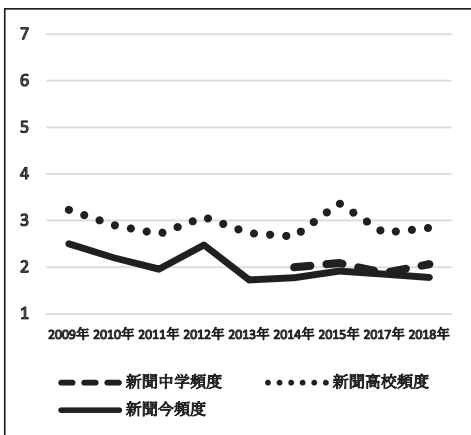


図9. これまでの新聞読書：「頻度」

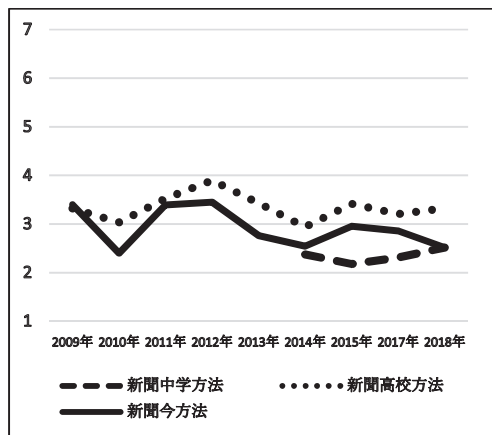


図10. これまでの新聞読書：「方法」

図11と図12は、これまで教科書をどのくらい読んできたかについての結果である(2011年から質問開始)。図11の頻度は、中学と高校の時が最も高く、平均値は4(「たまに気が向いたら読んでいた」と「数日に1度読んでいた」の中間)から5の「数日に1度読んでいた」を上回る範囲で推移している。現在(大学)の教科書を読む頻度が最も低く、2018年調査では3の「たまに気が向いたら読む」にまで下がっている。

図12に示す教科書を読む方法は、頻度の結果と同様に、高校時代がもっとも丁寧で現在(大学)の読み方は丁寧さが下がっているようである。しかし、中学、高校、現在の間の違いは大きくはなく、5の「重要だと思う項目はきちんと読む」に偏っている。

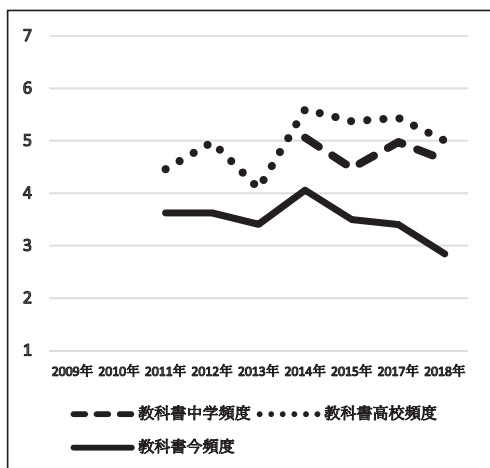


図11. これまでの教科書読書：「頻度」

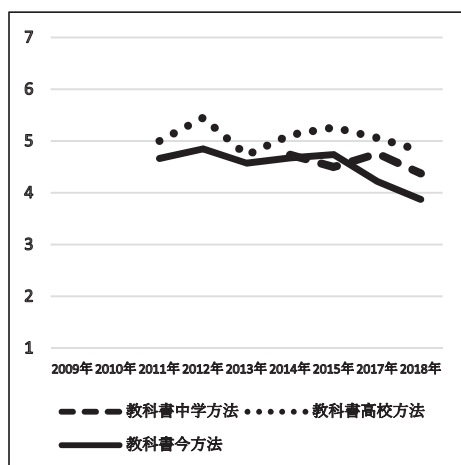


図12. これまでの教科書読書：「方法」

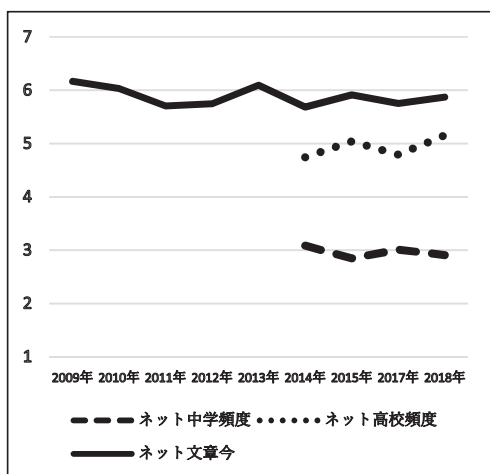


図13. これまでの紙以外読書：「頻度」

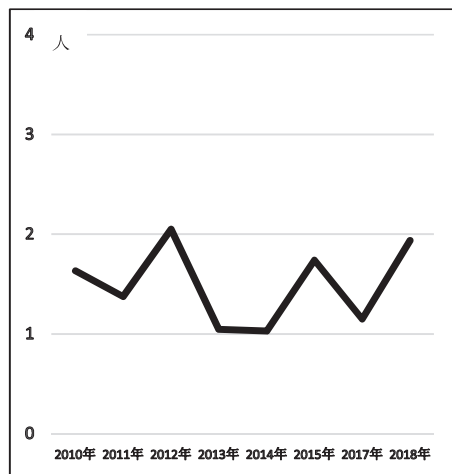


図14. 好きな作家の数

大学生の読書習慣が10年間でどう変わったか

図13は、インターネットやスマホなど、紙以外での読書をこれまでどの程度行ってきたかを尋ねた結果で、中学と高校については2014年から質問を開始している。最も頻度が高いのは現在(大学)の6(「数日に1度読む」と「毎日読む」の間)であった(図6も参照)。高校が5の「数日に1度読んでいた」で次に頻度が高く、最も頻度が低いのは中学で平均値は3の「たまに気が向いたら読んでいた」である。これらの結果は、年齢が低いとインターネットへのアクセス率が下がると思われることや、過去10年のネット環境の変化などを考慮に入れると、納得のいくものである。

3.1.5 好きな作家の数

最後は図14に示す、好きな作家を何人あげることができるかの結果である。フィクションやノンフィクションなど、ジャンルを問わず好きな作家の名前を複数書くという設問だった。その結果、平均で1人または2人の名前があがり、調査年との間の相関関係は認められなかった。

以上、本節では、各質問の回答値と調査年との関係を中心に結果を述べた。合計32の質問のうち、調査年との間に有意な相関関係が確認されたのは5問のみであった。それらは、「全般的な読書時間」、「紙の本の読書時間」、「教科書を読む方法」、「紙以外のニュース・記事を読む頻度」、「紙以外のニュース・記事を読む方法」であった。具体的には、年とともに読書時間が減少し、教科書を雑に読むようになっていた。しかし、ネット等でニュースを読む頻度は高まり、ネットのニュースはより丁寧に読むような変化がみられた。本の読書頻度や量については10年を通して大きな変化はみられず、1～2ヶ月で1冊を読む量を中心に、わずかに変化を見せるのみであった。

3.2 全体的な特徴

前節では、年毎の平均回答値と、調査年との間の相関関係について概観した。本節では、過去10年を一区切りとして、特筆すべき相関関係がみられた質問項目について報告する。質問項目32の回答値と、その結果を新たに加工して加えた1項目について(計33項目)、総当たりで相関関係を調査した。新たに加えられた1項目は、「これまでの読書頻度(本)」(表3の質問カテゴリD)の4つの質問の回答値を総計した値である。つまり、「現在」、「高校」、「中学校」、「小学校」の本の読書頻度値を合計して、「本合計」とした。³

調査の結果、33項目のうち31項目で他の質問項目との間に弱い相関以上の関係が確

3 「頻度合計(本合計)」を設定したのは、小学校から大学までの各時代の読書習慣よりも、全てを足し合わせた読書習慣の方が、文理解との関係性が高いという知見(澤崎, 2012; 2018)による。なお、現在の読書頻度を問う質問(D1)は、2014年から2018年の間は割愛されていたため、ほぼ同じ質問であるB2aの回答をもって充てた。

認められ、平均して9つの質問との相関関係がみられた。逆に、どの質問とも相関関係がみられなかった質問が2つあり、「紙の読書」(質問カテゴリ B)のなかの「雑誌を読む頻度 (B4)」と、「紙以外の読書」(質問カテゴリ C)のなかの「ネットで文章を読む頻度 (C1a)」であった。

3.2.1 「全般的な読書頻度」との相関

最も多くの質問項目と相関関係がみられたのは、「読書全般」(質問カテゴリ A)のなかの「読書頻度 (A2)」を尋ねる質問であった。(5)がその質問例である(図1の質問例 A2に同じ)。

- (5) 現在、日本語で、本、新聞、雑誌、インターネット、端末など、全て合わせて文章をどのくらい読みますか。

この質問は、33の項目中17の質問項目との間に相関関係が確認され、これを表4-1と表4-2に相関係数とともに示す。表からわかるとおり、紙の読書と紙以外の読書の両方にわたって、幅広く関係性を示している。ただし、17の質問項目のうち、その殆どである15項目が弱い関係であった。

表 4-1. 「読書全般の頻度」と相関関係が確認された質問項目

読書全般頻度	A: 読書全般		B: 紙の読書	C: 紙以外の読書			F
	読書時間	好き嫌い	紙の読書時間	ネット文章頻度	ネット文章方法	ネットニュース頻度	作家数
	.385**	.306**	.241**	.471**	.269*	.214**	.299**

* $p < .005$ ** $p < .001$

表 4-2. 「読書全般の頻度」と相関関係が確認された質問項目 (表 4-1 の続き)

読書全般頻度	D: これまでの読書頻度 (本)			E: これまでの読書頻度 (本以外)						
	本今頻度	本高校頻度	本合計	新聞中学頻度	新聞中学方法	教科書高校頻度	教科書中学頻度	教科書中学方法	ネット高校頻度	ネット中学頻度
	.211**	.221**	.247**	.230**	.272**	.310**	.241**	.227**	.458**	.259**

* $p < .005$ ** $p < .001$

大学生の読書習慣が10年間でどう変わったか

表 5. 「好き嫌い」と比較的強い相関関係が確認された質問項目

質問カテゴリ	A:全般	B:紙の読書		D:これまでの読書頻度(紙)					
質問	好き嫌い	本頻度	本量	本今	本高校	本中学	本小学	本合計	
A	好き嫌い	1	.552**	.534**	.522**	.522**	.430**	.312**	.553**
B	本頻度	.552**	1	.746**	.950**	.487**	.321**	.240**	.621**
	本量	.534**	.746**	1	.722**	.509**	.275**	.166**	.502**
D	本今	.522**	.950**	.722**	1	.511**	.309**	.215**	.631**
	本高校	.522**	.487**	.509**	.511**	1	.589**	.370**	.801**
	本合計	.553**	.621**	.502**	.631**	.801**	.860**	.758**	1

* $p < .005$ ** $p < .001$

3.2.2 「好き嫌い」とこれまでの「本合計」についての相関

次に、平均より多い10項目以上と相関がみられたもののなかから、中程度以上の関係が5項目(半数)以上あったものを取り出すと、表5に示す6つの質問項目(縦列)が残った。これらは、読書全般を問う「好き嫌い」の質問を除いて、すべて紙の読書(本)に関する質問項目であった。また、現在や高校の時の本に対する読書のことを問う質問が6つのうち4つを占めていることから、互いに関連の深い質問項目同士で中程度以上の相関があることになり、この結果は当然のことといえ、特筆すべきことではないかも知れない。

そのようななかで、日本語で書いてあるものが好きか嫌いかを尋ねるだけの質問が、特に本の読書習慣との関係性を強く示していた。この質問例を(6)に示す(図1、質問例A1に同じ)。

(6) 日本語で書いてあるもの(本、新聞、雑誌など)を読むのは好きですか、嫌いですか?

この質問は、14の質問項目との間に有意な相関があり、最も相関数が多かった前述(5)の質問の次に相関する項目数が多かった。(5)と比べて(6)では、紙の読書との関係がより強く現れた。これは、質問文のなかに、「インターネット」や「端末」のことばが(5)にはあり、(6)には含まれていなかったことが関係しているかも知れない。⁴

表5のなかの「本合計」も注目に値する。「本合計」は、「現在」から「小学校」ま

4 但し、弱い関係を含めると、現在のネット小説($r=.302, p<.001$)や高校時代のネット読書頻度($r=.226, p=.001$)といった項目とも相関が見られた。

での各時代の読書頻度の回答値を合計したもので、本の読書についての他の質問項目と多く相関が現れるのは当然である。しかし、「本合計」との相関が見られた質問数13のうち、中程度の相関があった質問数は7と高い割合を示しており、各時代単独と相関する質問の割合と比べて最も高かった。また、表5の6項目には「中学校」や「小学校」の読書頻度が含まれていないなかで、「本合計」が比較的高い相関の値を示していることも興味深い。このことは、小学校から大学までの各時代の読書習慣よりも、全てを足し合わせた読書習慣の方が、文理解との関係性が高いという知見(澤崎, 2012; 2018)とも符号する結果であった(脚注3参照)。

3.2.3 その他特記事項

上記以外の特記事項として、教科書や新聞などの読書頻度と読書方法の関係や、過去の各時代との相関について述べたい。まず、読む頻度とその方法には一定の関係が認められた。頻度と方法の両方について尋ねた質問は、紙の「新聞」と「教科書」、紙以外での「読書」と「ニュース記事」の4つであった。また、「新聞」と「教科書」については、現在のことだけでなく「高校」と「中学校」の習慣も尋ねた。これらすべてについて、読書頻度と読書方法の間には、殆どの場合中程度以上の相関関係が認められた(現在紙の新聞 ($r=.501, p<.001$)、現在教科書 ($r=.463, p<.001$)、現在紙以外の読書 ($r=.280, p=.001$)、現在紙以外のニュース記事 ($r=.551, p<.001$)、高校新聞 ($r=.625, p<.001$)、中学新聞 ($r=.599, p<.001$)、高校教科書 ($r=.631, p<.001$)、中学教科書 ($r=.718, p<.001$))。つまり、ジャンルや媒体が何であろうと時代がいつであろうと、多く読む学生ほど丁寧に内容も読んでいる(読んでいた)ということがいえる。

次に、現在新聞や教科書をよく読む学生は、過去のどの時代でも新聞や教科書をよく読んでいたという傾向が見られた。しかし、高校の時と中学の時の読書頻度は一貫して中程度以上の関係があったのに対し、現在の読書頻度と過去の読書頻度の相関は、殆どが弱い関係であることもわかった。例えば、教科書を読む頻度では、高校と中学の間には高い関係が見られたが($r=.732, p<.001$)、現在と高校($r=.355, p<.001$)、現在と中学($r=.384, p=.001$)の間は弱い関係しかみられなかった。新聞を読む頻度でも、高校と中学の間には中程度の関係が見られたが($r=.548, p<.001$)、現在と高校($r=.367, p<.001$)、現在と中学($r=.392, p<.001$)の間は弱い関係しかみられなかった。ここから推察できるのは、中学でよく新聞や教科書を読んでいた学生は、引き続き高校でも同じようによく読んでいたが、大学になると今まで新聞や教科書をよく読んでいた多くが読まなくなってしまう(または読む頻度が落ちてしまった)ということである。このことは、前節の図9、図11からもわかる。

最後に、本調査では、「頻度」や「好き嫌い」といった項目で相関関係が多く見付き、実際の読書時間とは際だった相関関係が現れなかった。実際の読書時間を尋ね

大学生の読書習慣が10年間でどう変わったか

る質問は、「全体の読書時間」と「紙の読書時間」の2つだけであったが、どちらも、他の質問項目9つと弱い関係が確認されただけであった（ただし、全体の読書時間と紙の読書時間の間には中程度の関係が認められた）。これは、読書時間は調査年との間に相関関係があったため、調査年を無視した全体的な比較では、その他の相関効果が現れにくくなったのが原因と思われる。

4. むすび

本稿では、静岡県立大学国際関係学部の1年生を対象とした、2009年から2018年までの10年間にわたる読書習慣に関する調査の報告を行った。調査の結果、次のようなことがわかった。

(7) 読書習慣と調査年との関係

- a. 質問32問のうち、調査年との間に相関関係があったのは5問のみであった。それらは、「全般的な読書時間」、「紙の本の読書時間」、「教科書を読む方法」、「紙以外のニュース・記事を読む頻度」、「紙以外のニュース・記事を読む方法」について尋ねる質問であった。
- b. 学生の読書時間は減少傾向にあり、教科書の読み方が年とともに雑になっていることがわかった。その反面、インターネットやスマホ等でニュースを読む頻度が高くなり、その読み方は年とともにより丁寧になっていた。
- c. 本の読書頻度や読書量には大きな変化がなく、1～2ヶ月で1冊を読むという読書量が10年間ほぼ続いていた。これは、1ヶ月に1冊も読まない不読の学生が多いことを示唆する。

(8) 全体的な特徴

- a. 質問項目間で、最も多くの質問と相関関係があったのは、「全般的な読書頻度」（17項目）と「読書の好き嫌い」（14項目）を尋ねる質問であった。読書の頻度が高いほど、あるいは読書が好きであるほど、過去の読書経験、新聞や教科書、ネットの読書が豊富であった。
- b. 読書のジャンルや媒体が何であろうと時代がいつであろうと、多く読む学生ほど丁寧に内容も読んでいた。
- c. 「現在」から「小学校」までの各時代の読書頻度を合計した数値は、各時代の読書頻度よりも、他の項目との関係が比較的強かった。
- d. 中学でよく新聞や教科書を読んでいた学生は、引き続き高校でもよく読んでいた。しかし、大学になるとその多くが読まなくなってしまう（または読む頻度が落ちる）ことが示唆された。

これらの結果には、先行研究の知見と一致するものもあったが、新しい発見もあった。先行研究の指摘と一致したのは、大学生の読書時間が減少傾向にあることと、ネットによる読書量が増加傾向にあるということである。現在から小学校までの読書頻度を単純に合計した値が、読書習慣の指標となりうることも、これまでの指摘のとおりであった。新しい発見は、新聞や教科書の読書習慣が、中学と高校を通して大きく変化しないにもかかわらず、大学に入るとその習慣が途絶える傾向があることである。また、読書の頻度が高い学生ほど、その読み方が丁寧であるということもわかった。しかしながら、本調査の結果が、現在の日本の大学生の読書習慣を映す鏡として、どの程度一般化できるかは注意が必要である。本調査は、静岡県立大学に在学する、人文科学や社会科学を専攻とする1年生を対象にしたものであり、全国に散らばる大学生に比べて属性が均質な集団をサンプルとしている。たとえば、読書全般の「好き嫌い」は、「どちらかと言えば好き」と「とても好き」の中間値を推移する結果を報告したが、異なる集団でも同じ結果となるかはわからない。さらに、本調査のサンプルが比較的均質な集団であるために、本来であれば現れる相関関係が確認できなかったということもありうる。

しかしながら、同一の環境で10年にわたり調査を続けたデータは貴重である。また、均質な集団でありながら、先行研究の知見に沿った結果もみられたことは注目に値する。このように、本調査報告は、小規模なケーススタディとしての注意点を併せもちながらも、これまでの報告を再確認するだけでなく新しい知見も提示できたことを最後に記して稿を閉じたい。

参考文献

- 加藤真紀 (2019) 「専門・汎用コンピテンスの習得と読書習慣の形成に影響を与える大学教育や活動」『*Working Paper Series/ Mori Arinori Institute for Higher Education and Global Mobility*』(No. WP2019-02) (<http://hdl.handle.net/10086/30833>)
- 澤崎宏一 (2012). 「大学生の読書経験と文章理解力の関係」『*国際関係・比較文化研究*』, 10(2), 213-231.
- 澤崎宏一 (2018) 「大学生の過去の読書経験は単独文の読みに影響を与える—主語・目的語省略文に対する文自然度判断から—」『*国際関係・比較文化研究*』, 17(1), 17-34.
- Stanovich, K. E., & Cunningham, Anne E. (1992). Studying the consequences of literacy within a literate society: The cognitive correlates of print exposure. *Memory & Cognition*, 20(1), 51-68.
- 全国大学生生活協同組合連合会 (2020) 『Campus life data 2019—第55回学生の消費生活に関する実態調査—』全国大学生生活協同組合連合会
- 浜島幸司 (2019) 「読書習慣のない大学生の特性と傾向」『*武蔵野大学教養教育リサー*

大学生の読書習慣が10年間でどう変わったか

チセンター 紀要』9, 77-88

平山祐一郎 (2009) 「これからの大学生の読書について考える」『読書科学』52(4), 200-204.

平山祐一郎 (2015) 「大学生の読書変化—2006年調査と2012年調査の比較より—」『読書科学』56(2), 55-64.

平山祐一郎 (2017) 「読書量の測定方法に関する一考察保育系大学生の読書教育に向けて」『東京家政大学博物館紀要』22, 53-62

文部科学省・国立教育政策研究所 (2019) 「OECD 生徒の学習到達度調査2018年調査 (PISA2018) のポイント」国立教育政策研究所HP

(<https://www.nier.go.jp/kokusai/pisa/>) 2020年6月7日取得

皆川晶 (2017) 「大学生の読書に対する意識と実態」『崇城大学紀要』42, 153-167

若島孔文・都築誉史・松井博史 (2005) 『心理学実験マニュアル』北樹出版

添付資料：質問票（2018年実施版）

1

読書習慣等に関するアンケート：日本語母語話者用 ver.6b

[回答前に必ず読んでください] これは、読書習慣や読書経験を調査するためのアンケートです。この結果は、研究目的に使われ、口頭発表や論文という形で公開される可能性があります。ただし、回答者の個人名が明らかにされることはありません。また、成績等に影響することはありません。このアンケートに回答して提出することで、研究目的でアンケート結果を用いることに同意したと判断させていただきます。ご理解とご協力を感謝します。

日本語以外に堪能な言語がありますか？ _____ 語 年令： _____ 才 出身地： _____

静岡県立大学 国際関係学部 _____ 学科 _____ 年生 性別： 男 女 2018年 _____ 月 _____ 日

0. 現在、日本語で、本、新聞、雑誌、インターネット、端末など、全て合わせて文章をどのくらい読みますか？

殆ど読まない	たまに気が向いたら読む	数日に1度読む	毎日読む
1	2	3	4
		5	6
			7

0b 現在、日本語で、本、新聞、雑誌、インターネット、端末で文章を読んでいる時間は、一日のうちどのくらいですか？

0時間、0.5時間、1.5時間、3.0時間のように、0.5時間単位で答えて下さい。

1日平均約 _____ 時間

0c 上記のうち、紙に印刷されている文章を読んでいる時間は、一日のうちどのくらいですか（インターネットや端末での読書は含まない）。

0時間、0.5時間、1.5時間、3.0時間のように、0.5時間単位で答えて下さい。

1日平均約 _____ 時間

1 日本語で書いてあるもの（本、新聞、雑誌など）を読むのは好きですか、嫌いですか？

とても嫌い	どちらかと言えば嫌い	どちらかと言えば好き	とても好き
1	2	3	4
		5	6
			7

A. 紙に印刷されている文章を読むこと（紙の読書）について、もう少し詳しくお尋ねします。

1b 紙に書かれてあるものを読むのは好きですか、嫌いですか？

とても嫌い	どちらかと言えば嫌い	どちらかと言えば好き	とても好き
1	2	3	4
		5	6
			7

2 通常（試験前など、時間の余裕がない時を除く）、日本語の本（小説など）をどのくらい読みますか？（紙の読書のみ）

a. 読む頻度

殆ど読まない	たまに気が向いたら読む	数日に1度読む	毎日読む
1	2	3	4
		5	6
			7

b. 読む量

1年で1～2冊以下	1～2ヶ月で1冊	1～2週間で1冊	1～3日で1冊
1	2	3	4
		5	6
			7

4 通常（試験前など、時間の余裕がない時を除く）、日本語の新聞をどのくらい読みますか？（紙の読書のみ）

a. 読む頻度

殆ど読まない	たまに気が向いたら読む	数日に1度読む	毎日読む
1	2	3	4
		5	6
			7

b. 読み方

見出しだけ見る （記事は読まない）	気になる記事は 時間をかけずにきつと読む	重要だと思う記事は きちんと読む	時間をかけて じっくり読む
1	2	3	4
		5	6
			7

大学生の読書習慣が10年間でどう変わったか

2

5 通常(試験前など、時間の余裕がない時を除く)、日本語の雑誌(週刊誌・月刊誌)をどのくらい読みますか? (紙の読書のみ)

殆ど読まない	たまに気が向いたら読む	数日に1度読む	毎日読む
1	2	3	4
		5	6
			7

6 通常(試験前など、時間の余裕がない時を除く)、日本語の教科書をどのくらい読みますか? (紙の読書のみ)

a. 読む頻度

殆ど読まない	たまに気が向いたら読む	読むことが多い	必ず読む
1	2	3	4
		5	6
			7

b. 読み方

目次や図表だけ見る (文は読まない)	重要だと思う項目は 時間をかけずにさっと読む	重要だと思う項目は きちんと読む	時間をかけて じっくり読む
1	2	3	4
		5	6
			7

7 通常(試験前など、時間の余裕がない時を除く)、日本語のマンガをどのくらい読みますか? (紙の読書のみ)

殆ど読まない	たまに気が向いたら読む	数日に1度読む	毎日読む
1	2	3	4
		5	6
			7

AB. ネットやスマホ、端末等で文章を読むこと(紙以外の読書)について、もう少し詳しくお尋ねします。

3a 通常、携帯、ネット、端末等で、日本語の文章をどのくらい読みますか? (紙以外の読書)

殆ど読まない	たまに気が向いたら読む	数日に1度読む	毎日読む
1	2	3	4
		5	6
			7

3b 通常、携帯・ネット・端末等で、日本語のニュース記事をどのくらい読みますか? (紙以外の読書)

a. 読む頻度

殆ど読まない	たまに気が向いたら読む	数日に1度読む	毎日読む
1	2	3	4
		5	6
			7

b. 読み方

見出しだけ見る (記事は読まない)	気になる記事だけ ななめ読み(飛ばし読み)	重要だと思う記事は きちんと読む	時間をかけて じっくり読む
1	2	3	4
		5	6
			7

3c 通常、携帯・ネット・端末で、日本語の小説や物語をどのくらい読みますか? (紙以外の読書)

殆ど読まない	たまに気が向いたら読む	数日に1度読む	毎日読む
1	2	3	4
		5	6
			7

7b 通常、携帯・ネット・端末等で、日本語のマンガをどのくらい読みますか? (紙以外の読書)

殆ど読まない	たまに気が向いたら読む	数日に1度読む	毎日読む
1	2	3	4
		5	6
			7

C. あなたの過去の読書習慣についてお尋ねします。

10a 高校生の時、どの程度日本語の本を読んでいましたか？ (雑誌・新聞・漫画・ネットの文章を除く)

殆ど読んでいなかった	たまに気が向いたら読んでいた	数日に1度読んでいた	毎日読んでいた
1	2	3	4
		5	6
			7

10b 中学生の時、どの程度日本語の本を読んでいましたか？ (雑誌・新聞・漫画・ネットの文章を除く)

殆ど読んでいなかった	たまに気が向いたら読んでいた	数日に1度読んでいた	毎日読んでいた
1	2	3	4
		5	6
			7

10c 小学生の時、どの程度日本語の本を読んでいましたか？ (雑誌・新聞・漫画・ネットの文章を除く)

殆ど読んでいなかった	たまに気が向いたら読んでいた	数日に1度読んでいた	毎日読んでいた
1	2	3	4
		5	6
			7

11a 高校生の時、どのくらい日本語の新聞を読んでいましたか？ (ネットやスマホ等の新聞記事は含まない)

a. 読む頻度

殆ど読んでいなかった	たまに気が向いたら読んでいた	数日に1度読んでいた	毎日読んでいた
1	2	3	4
		5	6
			7

b. 読み方

見出しだけ見る (記事は読まない)	気になる記事は 時間をかけずにさっと読む	重要だと思う記事は きちんと読む	時間をかけて じっくり読む
1	2	3	4
		5	6
			7

11b 中学生の時、どのくらい日本語の新聞を読んでいましたか？ (ネットやスマホ等の新聞記事は含まない)

a. 読む頻度

殆ど読んでいなかった	たまに気が向いたら読んでいた	数日に1度読んでいた	毎日読んでいた
1	2	3	4
		5	6
			7

b. 読み方

見出しだけ見る (記事は読まない)	気になる記事は 時間をかけずにさっと読む	重要だと思う記事は きちんと読む	時間をかけて じっくり読む
1	2	3	4
		5	6
			7

12a 高校生の時、どのくらい日本語の教科書を読んでいましたか？

a. 読む頻度

殆ど読んでいなかった	たまに気が向いたら読んでいた	数日に1度読んでいた	毎日読んでいた
1	2	3	4
		5	6
			7

b. 読み方

目次や図表だけ見る (文は読まない)	重要だと思う項目は 時間をかけずにさっと読む	重要だと思う項目は きちんと読む	時間をかけて じっくり読む
1	2	3	4
		5	6
			7

大学生の読書習慣が10年間でどう変わったか

4

12b 中学生の時、どのくらい日本語の教科書を読んでいましたか？

a. 読む頻度

殆ど読んでいなかった	たまに気が向いたら読んでいた	数日に1度読んでいた	毎日読んでいた
1	2	3	4

b. 読み方

目次や図表だけ見る (文は読まない)	重要だと思う項目は 時間をかけずにさっと読む	重要だと思う項目は きちんと読む	時間をかけて じっくり読む
1	2	3	4

13a 高校生の時、どの程度ネットやスマホで日本語の文章を読んでいましたか？（紙以外の読書）

殆ど読んでいなかった	たまに気が向いたら読んでいた	数日に1度読んでいた	毎日読んでいた
1	2	3	4

13b 中学生の時、どの程度ネットやスマホで日本語の文章を読んでいましたか？（紙以外の読書）

殆ど読んでいなかった	たまに気が向いたら読んでいた	数日に1度読んでいた	毎日読んでいた
1	2	3	4

D. 最後に、好きな(好きだった)小説家やノンフィクション作家の名前を何人かあげてください。
(誰もいない場合は空欄で)

ご協力どうもありがとうございました。